

中学2年生の音楽では、「情景にあった音楽を創作しよう」というテーマのもと、フリーの作曲ソフトを使い、8時間かけて作曲活動をおこない、作品をMIDIファイルに変換し、コンピュータ上で創作作品を発表した。創作活動をおこなう際に、気軽にインターネットサイトのMIDIやMP3を自分のコンピュータに取り入れる様子や、既存の曲の楽譜を使おうとする姿もあったので、「著作権」についてどのくらいの理解があるのか不安に感じた。また、自分たちが創作した創作作品にも著作権が生まれるということ、創作者の立場にたって「著作権」を考えることができるよいチャンスであることから、今回の「著作権」についての授業を考えた。

まず、生徒の実態を把握するために、アンケートを実施した。

著作権を知っていますかという質問に対して、2年生156人中76%の生徒が、「著作権」について知っている、または、少し知っていると解答した。(資料1)

具体的にどのようなことを知っているかという質問に対しては、法律で定められたものであるということや、アイデアを盗まれてしまわないように、人権を守るためなど、ことばは様々でもあるが、だいたいの内容は理解していた。(資料2)

しかし、「著作権」はどのようにして存在すると思いますかという質問に対しては、「著作権」について知っている、少し知っていると答えた生徒達の中にも「わからない」と解答する生徒も多く、解答も様々であり、モラルの問題、プライベート、プライバシーなど、少し観点が違うことばを使っている例もあった。(資料3)

まったく著作権について知識のない24%の生徒達と、知識が抱負な生徒達、何となくわかっている生徒たち全員に効果的な授業を考えた結果、自分達で創作した作曲作品を使って、「なぜ著作権が存在しているのか。」「著作権は必要なのか」についてディベートを行うことで、「著作権」についての考えや理解を深められるような授業を展開していきたいと考えた。活発な意見交換がおこなえるように、クラスを半分に分けて、著作権は絶対に必要であるという肯定派、あまり必要ないのではないのかという否定派に分かれて、討論を行うこととした。

音楽の時間に、フリー作曲ソフトを使った曲ができあがるとMIDIファイルに変換し、スタディーノートに自分がイメージした画像の写真を貼り付け、作品の解説と一緒に1つの画面にする。その画像と、作曲作品の解説、作曲作品がひとつになった作品画面に、各自が必ずコピーライトマークをつけることにした。(資料4)

コピーライトマークの意味はあえて説明せずに、学活の時間に説明をするということにして、著作権の授業への期待が高まるようにした。

学活の時間に以下のように授業を展開した。

過程	活動の内容	準備・資料	支援・援助の配慮 評価
活動の開始	1 創作活動を振り返り、創作作品に入れたマークについて理解する。	生徒それぞれの作品	<ul style="list-style-type: none"> 著作権を身近なものと感じられるようにする。 コピーライトマークを理解し、今後の正しい判断に生かせるようにする。
	2 「著作権」についてのアンケート結果をもとに、著作権について知る。	アンケート集計結果	<ul style="list-style-type: none"> 「著作権」とはどういったものなのか、アンケートや、コンテンツを利用して理解しやすくする。 アンケート結果を使い、簡単に著作権の内容を確認する。
	3 現在の著作権をめぐる問題について知る。	掲示資料	<ul style="list-style-type: none"> 著作権の考え方が生まれるきっかけとなった、500年前の話をする。 日本レコード協会による、個人録音調査や、ファイル交換ソフト利用調査結果を示しながら、情報機器が発達してきたことで起こってきた、音楽コピーの問題を提示する。 コピーコントロールCDが実用化され

4 本時の目標を知る		てきている現実を知らせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px;"> 著作権はなぜ存在するのだろうか。なぜ必要なのだろうか。 </div>	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・法律だからと暗記するだけではなく、どうして存在するのか、必要なのかという内容を考えられるようにする。
5 ディベートをおこなう	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・ディベートをおこなうことで考えが深まるように、クラスを2つに分けて、著作権が必要だという観点から主張するチームと、必要ではないと主張するチームに分かれる。 ・創作者の立場に立った肯定側の意見の例と、情報機器を有効に活用し、多くの情報を共有できるよさを訴える否定側の意見の例をあげる。
<ul style="list-style-type: none"> ・肯定と否定に分かれた座席につき、相談も含めて主張を準備する。 ・ディベートから考えたことをまとめる。 	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・教師側で主張を予測し、切り返しの質問を準備しておく。
6 本時のまとめをする。	J A S R A C P A R K コピーライト ワールド ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の著作権についてまとめたデジタルコンテンツを使って、「著作権」現在の著作権について知る。 ・著作権について考えながら生活しようという心を持つようなまとめをする。

授業の導入に際しては、コピーライトマークに興味を示し、家に帰ってからCDをチェックしてみたいという声も聞こえた。自分たちの作品にも著作権が発生したことにも驚きを感じているようだった。

アンケート結果を使って、著作権の概要を著作権の考え方が生まれてきた500年前の印刷機発明の話や、今著作権に関して問題となっている違法コピーの問題などを日本レコード協会の実態調査を使って説明した。各レコード会社が取り組んでいるコピーコントロールCDについても紹介した。問題は、情報機器の発達によって、CDを購入しなくとも、よい音質で一般家庭でも簡単に作品のコピーができてしまうことであるということを伝えた。

著作権肯定派と著作権否定派に列でわけて、自分の主張を考えさせた。どちらの立場も「もし著作権がなかったらどうなるのか。」という点を創作者や利用者の立場に立って考えさせるようにしたところ、肯定派、否定派の主張として生徒から出てきたのは以下の通りである。

(肯定派)

- ・創作者にお金が入ってこない。職業としてやっているのであれば給料が入るべきだ。
- ・自分の作品が悪用されてしまう。
- ・自分がせっかく苦労してつくったものをまねされたらすごく嫌な気持ちになる。
- ・まねされると安心して曲をだせなくなる。
- ・勝手に作品を盗むのはよくないから、法律で守るべき。
- ・お金が入らないと、作る人もやる気をなくして、アーティストが減ってしまう。
- ・勝手に複製して外国で売られてしまう。
- ・がんばってつくったのに無断で売られるのはひどい。
- ・著作権があるからこそ創作できる。
- ・第三者がもうけたり、得をするのはおかしい。
- ・著作権のない社会は、中国の遊園地のように美しくない。 など

(否定派)

- ・自由にいろんな音楽を聴けると楽しめる。
- ・YouTubeの動画が自由にみれなくて楽しくない。
- ・一部の人にはばかり利益が入る。

- ・自由にいろんなものを聴くことができると、かえって発展してよい作品ができる。
- ・お金をかけずに、いい音楽を聴ける。アーティストもいろんな人に聴いてもらえる。
- ・ロック解除などができる不法な人だけが楽しんでいる。
- ・コピーが自由なら自分の好きなことを友達に気軽に知ってもらえる。友達が増える。
- ・せっかくの機械の技術をフル活用しないともったいない。
- ・知識の共有は人類の発展につながる。
- ・悪用さえしなければ、コピーしてもいい。アーティストはもう知っているし、デジタルプレーヤーなどが駄目といわれたら、余計に他の人がもうからない。
- ・実際著作権を破っている人もいるし、いちいち法律でしばっても収拾がつかない。など

ディベートを通して考えたこととして、以下のような感想がよせられた。

- ・自分は否定派の主張をしたけれども、やっぱり著作権は必要だと思った。パクリブームがくると、アーティストも安心してCDが出せないと思う。
- ・著作権があつていいこと、なくてもいいことのそれぞれがわかった。著作権があれば、人のモラルや心が守れる。逆になければ、知識を共有できるが、人の心を傷つけたり、害を及ぼしたり、お金が入らなかつたりする。
- ・今のきまりは、個人の共有のみと書いてあるが、悪用せずに共有していきたいと思った。
- ・自由に楽しめなくなるのはいやだけど、苦労してつくったものを勝手につかわれるのもいやだ。
- ・著作権は必要だけど、あまり厳しく取り締まる必要もないと思う。
- ・著作権は厳しすぎても困るけど、なさすぎても困るということがわかった。
- ・著作権を破っているひとがたくさんいるから全部ちゃんと罰した方がいい。
- ・自分で考えたものはまねされたり悪用されるといやだけど、いいものは楽しみたい。
- ・コピーを売ったりしなければ自分の楽しみのためだけにはコピーしてもいいのかと改めて思った。
- ・短いディベートだったからくわしいことは言えないが、ダウンロードして乱用しなければいいんだと思った。
- ・著作権がなかったら・・・なんて考えたことがなかったから、いい機会だった。
- ・悪用されたくない人は、個人的にも対策を考えた方がいい。
- ・どっちもどっちだと思った。どっちの言い分もわかるから、解決は難しい。
- ・まねされるのは苦労したのが水の泡になるので作者がかわいそう。

著作権についてもっと考えて行きたいという感想が多く寄せられた。

- ・著作権について色々考えなきゃいけないなと思った。
- ・またみんなで考えたい。
- ・作ったひとの権利を守りつつ、いいものは正当なルートで広めていける人が増えるといいなと思った。

自分の創作した作品に入れた著作権のマークから授業をスタートさせることで、音楽を創作した経験をふまえて授業の導入をスムーズに進めることができた。創作者の気持ちにスポットをあてた主張も多くきくことができた。

もし著作権がなかったらという観点で意見を考えさせて討論を行うことで、著作権について興味関心をもち、深く考えたい、きちんと知りたいという気持ちを生徒に持たせることができた。創作者の立場になり、一人一人が著作権を守って生活することが、創作者、利用者にとってもよい未来へつながることに気づく生徒も見られた。これは、今回の授業の成果であると思う。

ディベートについては、生徒の意見の中にもあったのだが、現行の著作権法についての知識が少なく、主張を考える時間も短かったため、ディベートとしての盛り上がりには欠けてしまった。もっと自分たちで著作権法を調べ、グループで作戦を立てた上でディベートにのぞむようにすると、内容の濃いディベートを行うことができたと感じた。次回授業を行う時には、資料収集の時間と、グループでの打ち合わせの時間を多くとってみたい。

(参考)

- ・JASRAC PARK
- ・コピーライトワールド
- ・日本レコード協会 実態調査
- ・もう一つの著作権の話

白田 秀彰